

エンタ目

笑福亭 たま

「桂春団治」と言えば「芸のためなら女房も泣かす」という歌を思い出すだろうが、そのイメージは初代である。

当代春団治は四代目。上方落語ファンからすると春団治のキャッチコピーは、初代が破天荒、二代目が爆笑王、三代目が華麗、四代目が天然ボケ…と言われる。私が言っただけでもないですよ(笑)。落語の世界には襲名というシステムがあり、襲名した者は「名跡のブランド」を受け継ぐ一方、先代との差別化が求められる。当代春団治師匠は芸歴五十五年という大ベテランにもかかわらず、若手噺家にも敷居を低くして接してくれる。四代目は若い時はミヤコ蝶々先

■ 四代目桂春団治 ■

生にイジられ、後にぎこば&鶴瓶の面師にイジられ、今や若手落語家にも高座でよくイジられるという傑物である。芸人が四代目のエピソードを舞台で紹介するのは、それだけ四代目が皆に愛されているからである。

四代目のエピソードをいくつか紹介すると、①イタリア旅行中に泥棒にあつたらしいが、本人は盗まれていることに気づかず、しばらくカバンの取っ手だけ握って歩いていたらどか…②四代目が上方落語協会の副会長に就任した直後、私に「若手として意見を言え。副会長として聞いた」と言いはった。私が意見を言つと「おお！ それはええ意見や！ そついう意見はな、ちゃんとした人に言え

天然ボケ…でなく寛容



四代目桂春団治師匠と筆者

とや！」と激怒した。そして舞台上がってお客に「今日、私の師匠の三代目春団治を見に来た人はさぞガツカリしてると思います。パンダ見に来た思たらレツサーパンダやっ

！。…ええーっ！③三代目春団治師匠が生きていた時のこと。三代目春団治師匠が病気で休演となり、四代目(当時春之輔)が代演で来た。楽屋で主催者がスポンサーに「今日は三代目春団治師匠やなしに、弟子の春之輔さんになつてしまいます。パンダや思て見に来たらレツサーパンダやった思て堪忍してください」と言つたのを小耳にはききんだ四代目が「失礼な！ レッサーパンダとはどういうこ

きますと伝えると「何書いても怒らへんから」と笑顔で答えてくださった。私もこんな懐の深い芸人でありたいと思う。四代目は天然でなく、実は寛容の春団治なのだろう。(落語家〓次回掲載は三月十二日)